

新原海軍炭鉱の雑誌『新原』(2)

雑誌『新原』の5号から8号は、いずれも大正13年(1924年)発行です。

5号の表紙は大正十三年四月中負傷者図表にて総負傷者数は359人、四坑129人、五坑119人、六坑121人と坑別の内訳を記し、さらに「瓦斯・落盤・炭車・捲網・機械・其他」と原因別に分類しています。最も多いのが落盤で172人、次が其他の157人、次が炭車の39人、瓦斯・捲網はゼロです。負傷者数なので、死亡者はゼロということが前提になっています。

負傷の部位も図で分けています(5号表紙の「部分」)。頭部72、上半身29、手138、足130。単なる図表でいいところを、デザイン上の工夫をこらしていることがよくわかります。

6号の表紙は上段に明治40年〜大正12年の「我国石炭輸出入表」下段に大正2年(1913)の「一年一人石炭消費量(戦前)を掲げています。『我国石炭輸出入表』は日本の石炭輸出入量を示し、表からは輸入が増大し、輸出が減少していることがわかります。「一年一人石炭消費量」は1人当たりの年間石炭消費量を示し、米国5.5トン、英国4.2トン、ドイツ3.5トンとある中、日本は0.35トんに過ぎないことがわかります。戦前とあるのは第一次世界大戦(1914〜1918年)前という意味です。

7号の表紙は「坑木単価才数見積表」です。才数とは、体積の単位のことです。

8号の表紙がデザイン的にはおもしろく、大正十二年末全国労働者数が395万8887人、そのうち「鉱山労働者数」が28万7千589人であり、官公営工場・民営工場 其他の労働者

の人数と続き、鉱山労働者のうち男21万6千240人、女7万1千394人などと書かれたグラフを左手で掲げ、その下に煙突から煙が吐き出されている工場の様子が描かれています。これは新原海軍炭鉱の稼働状況を示



5号の表紙



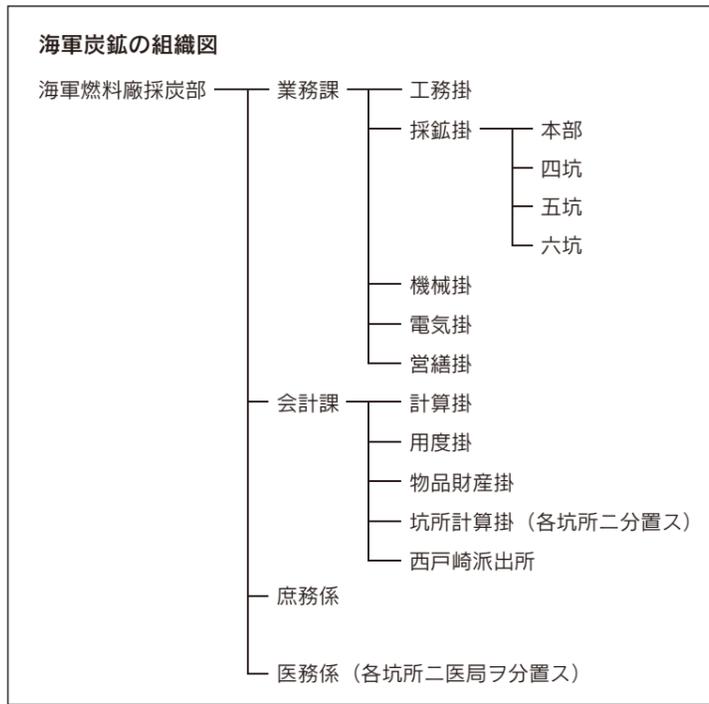
5号表紙「部分」



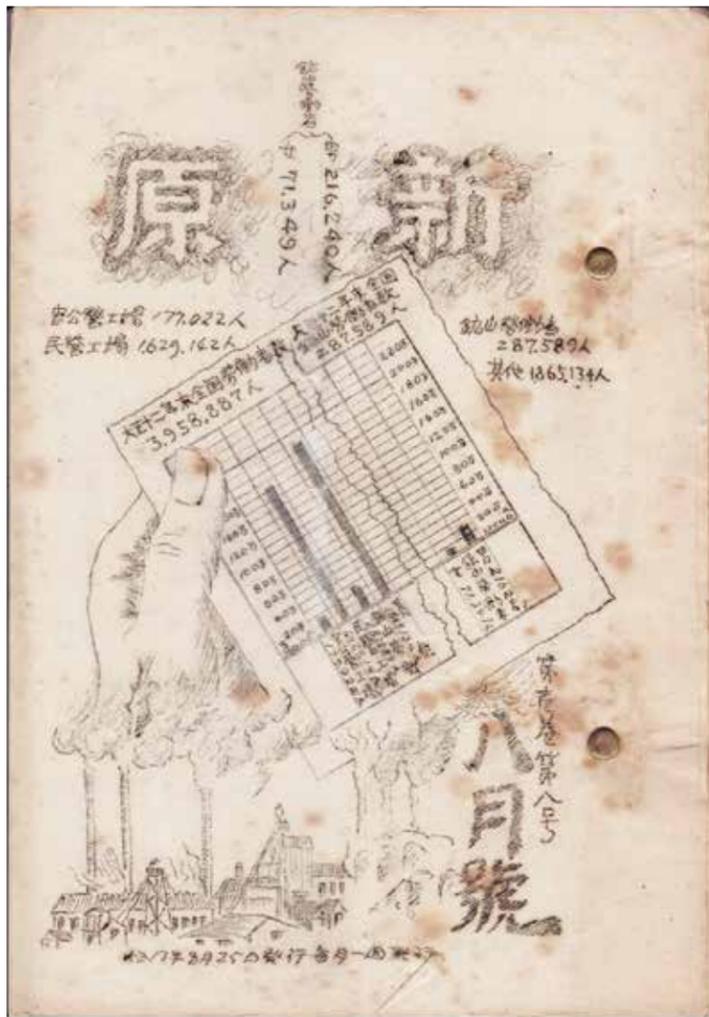
6号の表紙



7号の表紙



ケツチしたものに間違いないでしょう。8号には海軍炭鉱の組織図が載っているのですが、ここに紹介しておきましょう。(左図参照)



8号の表紙